

行き過ぎた自信過剰の危険性

義理の息子のブライアンは、有名な上場企業の元最高財務責任者だった私の友人に会いました。ブライアンに彼との会合はどうだったか尋ねると、彼は答えました。「彼は私にすばらしい考え方を教えてくれました。それは、自分が思っているほど自分は重要ではない、ということです。」

彼のように地位がある知的な年長者がこのような考えをブライアンに分かち合うのは非常に有益なことでした。彼は会社の経営者として相当な権力と注目を集める立場にいることをよくわかっていました。しかし、同時に彼の影響力と名声は一時的なものであることも理解していました。その立場はあっという間に奪い取られてしまうかもしれないのです。

その日、ブライアンは出世階段の上にいようと下にいようと、どの立場ももろくて代わりはいくらでもいるということを学びました。たとえ会社の最高幹部であっても、球団のマネージャーやサッカーのコーチであっても、議員であっても、レストランのマネージャーや工事現場の監督であってもです。誰もが代替可能なのです。そのために、高慢から自分の心を守ることが非常に大事になってきます。人生においてなにかしら成功を収めた場合には特に注意が必要です。

この経営者が「自分が思っているほど自分は重要ではない」と言ったことは賢明でした。聖書でも同じような警告を見つけることができます。例えば、**ローマ 12:3**ではこう言っています。

「わたしに与えられた恵みによって、あなたがた一人一人に言います。自分を過大に評価してはなりません。むしろ、神が各自に与えてくださった信仰の度合いに応じて慎み深く評価すべきです。」

聖書では非常に多くの箇所です。「うぬぼれる (puffed up)」という表現を用いて、自信過剰という妄想と高慢に捕らわれた人々のことを描写しています。**コロサイ 2:18**では間違った信仰を持ったひとたちに対してこう述べています。

「偽りの謙遜と天使礼拝にふける者から、不利な判断を下されてはなりません。こういう人々は、幻で見たことを頼りとし、肉の思いによって根拠もなく思い上がっているだけで、…」

では、どうやってうぬぼれたり自分を過大評価するといった落とし穴を避けることができるでしょうか？ほかの聖書箇所を見てみましょう。

高慢という落とし穴に気づきましょう。

私たちは自分が誰よりも素晴らしいと確信しているような人々と出会うことがあります。しかしこういった

人々は自分が失敗した時に軽蔑されたり、誰かにひどく誇張された自己評価を暴かれたりします。

「高慢には軽蔑が伴い、謙遜には知恵が伴う」箴言 11:2。

他人へ敬意を示しましょう。

能力のあるリーダー、つまり部下たちのモチベーションを向上させやる気を引き出すことができるリーダーとは、謙虚で人に対して誠実に接することができる人です。

「何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことをだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。」ピリピ 2:3-4。

あなたへの称賛は一時的なものです。

称賛を得ることはとても気持ちの良いものですが、その言葉を真に受けたり、お互いに褒めあったりすると、つまずきの石にもなり得ます。

「銀にはるつぼ、金には炉。人は称賛によって試される」箴言 27:21。

もっと深めるために：

1. 「自分が思っているほど自分は重要ではない」という経営者の言葉は本当ですか？何か例外を考えましたか？それはどうしてですか？
2. 今日の「月曜日のマナ」で取り上げたような高慢な人に今まで会ったことはありますか？それはどのような人でしたか？あなたはどのように接しましたか？
3. あなた自身は自分の行き過ぎた自信過剰にもがき苦しんだことはありますか？それはどのような状況でしたか？どうやって克服しましたか？
4. 「自分たちはそれほど重要でない」と常に心に留めておくための一番良い方法は何だと考えますか？どうやってそれを人に伝えたらよいでしょうか？

参考聖書箇所リストです。参照ください：

箴言 12:9・箴言 16:5,18・箴言 18:12・箴言 21:4,24・箴言 26:12・ローマ 2:8・ローマ 12:10・エペソ 5:21。

この発行はリック・ボックスによって書かれました。月曜日のマナ®は CBMC より毎週発行しているメールマガジンであり「ビジネスとマーケットプレイスをキリストに」の世界的働きで、利益を求める活動では無く、超教派で、1930年に創立され、各業界で働いている従業員、又、経営者ハイエス・キリストを宣べ伝える事を目的としています。